

都市計画道路 三国塚口線

建設事業評価(事前評価) 参考資料

平成24年10月

大阪府

都市整備部 交通道路室

池田土木事務所

① 府県間部を含めた費用便益分析等の効率性について



○府県間の接続について

- 三国塚口線は兵庫県側の山手幹線と接続することにより、阪神間を結ぶ広域的な交通ネットワークが形成されるため、事業全体としては、将来の府県間部を含めた計画としている。
- 府県間の整備にあたっては、兵庫県側からの交通流入に対応するために、まずは、当該区間の整備により交通容量を確保する必要があり、その後、事業を進めていく計画である。

[L=1.5kmで分析]

＜具体的な便益内容＞ 走行時間短縮・走行費用短縮・交通事故減少

＜受益者＞ 地域住民・道路利用者

費用便益分析 B/C=2.09

費用 (C)	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成24年		
単純合計	140.4億円	3.8億円	144.2億円
基準年における 現在価値 (C)	96.1億円	0.8億円	96.9億円

便益 (B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成24年			
供用年	平成43年			
基準年における 現在価値 (B)	198.4億円	12.7億円	-8.4億円	202.7億円

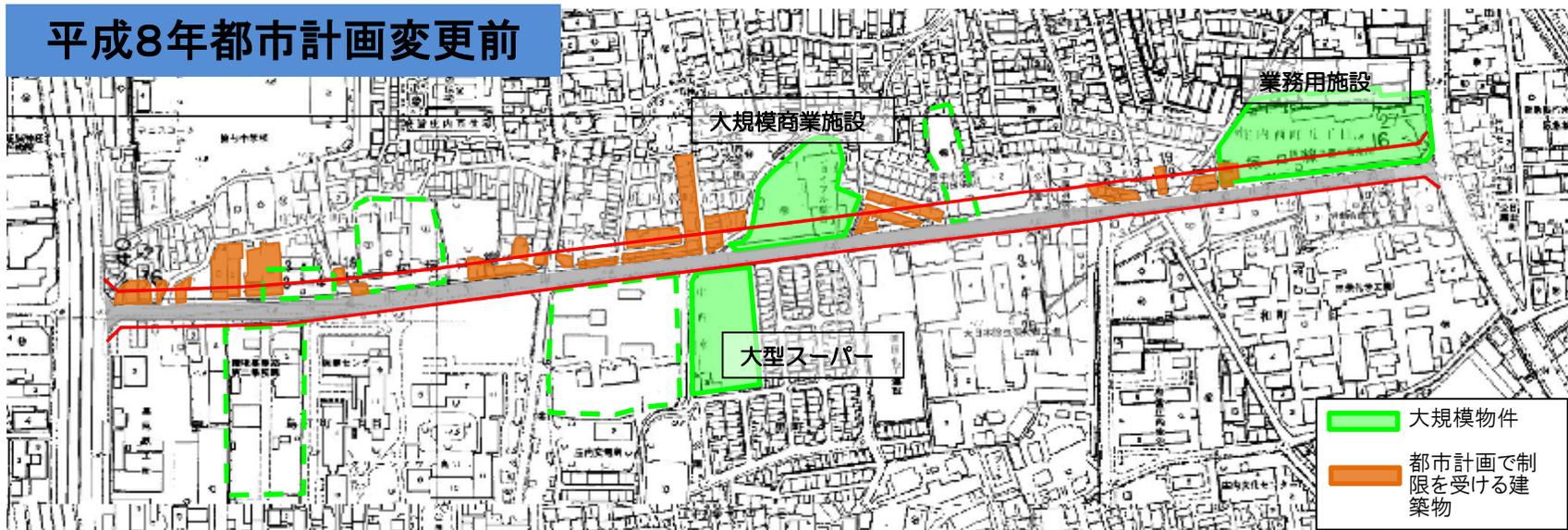
※供用年⇒・府県間部を含めた全区間（1.5km）の費用便益分析を検討するため、仮に設定したもので、供用時期を確定したものではない。
・府県間部の事業実施時にあらためて事業期間を定める。

※費用 (C)

- ・現都市計画幅で概算金額を算出
- ・阪急神戸線交差方法は橋梁形式
- ・兵庫県域の費用は算出していない

② 密集市街地対策について

平成8年都市計画変更前



現在の状況



平成8年の都市計画変更（2⇒4車線）後、大型店舗等が立地し、一定の空間が確保されているが、現在も都市計画の制限を受ける建築物は残っており、都市計画幅員で道路を整備することにより密集市街地の対策として、延焼遮断帯機能の向上を図るとともに避難路を確保したい。